

# Solidaridad



2024-2025 年次報告書

基盤を整え、新たな展開へ

一般社団法人 Solidaridad Japan

## カントリーマネージャーからのメッセージ

本報告書は、2024年から2025年にかけてのソリダリダード・ジャパンの活動をまとめたものです。この期間は、活動基盤を整えながら、国際ネットワークとの連動を強めていく過程でもありました。

私は2024年4月にカントリーマネージャーに就任し、組織運営を担当することとなりました。2024年は、活動基盤の強化に取り組みながら、皮革分野において現地活動への理解を深めました。現地視察や国内外の関係者との対話を重ね、その知見をもとに具体的なプロジェクト形成へとつなげ、複数の助成金申請を行いました。そのうち1件が2025年3月に採択されました。また、会計業務の専門化やアドバイザーの参画など、運営体制の整備も進めました。

2025年には、ネイチャーポジティブ、ランドスケープアプローチ、リジェネラティブ農業といったテーマについて、ソリダリダード・ネットワークがこれまで蓄積してきた知見や実践との連動を強めました。国内外の対話の機会を通じて、日本企業と生産国チームをつなぐ役割を拡充するとともに、現地視察の支援や地域間連携を進めています。

今後も現場の理解に基づき、日本と生産国をつなぐ役割を一層強化してまいります。

一般社団法人 Solidaridad Japan  
ソリダリダード・ジャパン  
カントリーマネージャー  
吉田 秀美

# 2024-2025 活動ハイライト

## 基盤の整備から、新たな展開へ

### 2024年 —基盤を築く—

- ◆ 皮革分野における現地理解とプロジェクト形成
  - 南アジア(バングラデシュ、インド・コルカタ)での視察・意見交換(4月)
  - 国内皮革産業集積地および前処理施設の視察(7月)
  - ウェビナー「水と労働のサステナビリティ:皮革産業を中心に」開催(7月)
  - 技術機関とのネットワーキング強化(10月)
  - 助成金3件応募(うち1件採択・2025年3月決定)
  - JICA・コペルニクによる企業連携ワークショップ参加・提案力強化(9月~3月)
- ◆ 運営体制の整備
  - 会計業務の専門化
  - 専門アドバイザーの有給参画
  - 発信体制の強化

### 2025年 —テーマ展開と国際連携の拡大—

- ◆ ネイチャーポジティブ・ランドスケープ・リジェネラティブ農業へ展開
  - ダージリンにてEU-ASIA 内部対話に参加(2月)  
(Acorn モデルの知見共有、農家視察、地域間連携の検討)
  - ネイチャーポジティブをテーマとしたウェビナー開催(5月)
  - 日本企業による現地視察の支援(7月)
  - オランダ大使館にて対面セミナー開催(8月)
  - リジェネラティブ農業をテーマにハイブリッドセミナー開催(12月)
  - バングラデシュ出張にて皮革プロジェクト準備を推進(12月)
  - 生産国チームと日本企業・研究機関との対話支援(マレーシア、インドネシア、インド)
  - 複数地域チームの助成金申請を支援(インド、アルゼンチン)
  - 他 NGO・研究機関の登壇による知見共有
  - 企業出身アドバイザー体制の整備

2024 年は、現地視察と対話を重ね、皮革分野でのプロジェクト形成へとつなげました。



バングラデシュにおける排水処理施設(CETP)訪問。関係機関と現地課題を確認



革工場オーナーとの対話(バングラデシュ)



皮革製品残滓を活用した付加価値製品の展示  
(インド)

2025 年は、リジェネラティブ農業を軸に、現場視察・技術確認・国内発信を展開しました。



EU/アジアチームと共に、リジェネラティブ農業を実践する小規模茶葉生産者組合を視察  
(2月、インド)



リジェネラティブ農業についてのハイブリッドセミナー  
(12月、JICA)



バイオ肥料の製造方法展示  
(7月、インド)

## ソリダリダード・ジャパンの役割

ソリダリダード・ジャパンは、ソリダリダード・ネットワークの各地域チームと日本の企業・機関をつなぐ役割を担っています。欧州、アジア、アフリカ、ラテンアメリカに展開する各地域の実践や知見を、日本国内の議論や企業活動に紹介し、具体的な協働へとつなげています。主な役割は以下のとおりです。

### ① ソリダリダード・ネットワークとの連携強化

各地域チームとの継続的な対話を通じて、現場での取り組みや課題を共有するとともに、日本企業の関心やニーズを生産国側へ伝えていきます。

### ② 日本企業との橋渡し

セミナーや対話の場を通じて、ネイチャーポジティブ、ランドスケープアプローチ、リジェネラティブ農業といったテーマを共有し、企業のサプライチェーンとの関わり方を共に検討していきます。また、現地視察の支援や生産国チームとの調整も行っています。

### ③ 助成金形成・プロジェクト支援

各地域チームによる助成金申請に対し、日本側から情報提供や提案支援を行い、案件形成を後押ししています。また、ソリダリダード・ジャパン独自のプロジェクトも各地域チームと協働で形成しています。

### ④ 国際議論の整理と発信

国際的に議論が進む概念や実践(例:Acorn モデル、リジェネラティブ農業など)を、日本の文脈に合わせて整理し、ウェビナーや SNS を通じた発信を強化していきます。

今後も、日本と各地域をつなぐ対話と協働を継続し、具体的な案件形成につなげていきます。

## 企業・ステークホルダーとのエンゲージメント

### 開催したセミナー

開催時期	テーマ	形式	参加者数	主な参加層
2024 7月	水と労働のサステナビリティ： 皮革産業を中心に	オンライン	69名	企業/ 研究者
2025 5月	ネイチャーポジティブ： 自然を基盤とした解決策の最 前線 ～再生型農業・小農支 援・GHG削減～	オンライン	102名	企業/ 研究者/ NGO
8月	認証を超えた価値創造へ： 企業と生産地をつなぐ新たな 可能性	対面 (駐日オラン ダ大使館)	27名	企業/ 研究者
12月	リジェネラティブ農業 2025： 気候・生物多様性・土壌をめぐ る農業と認証制度のこれから	ハイブリッド (JICA ちきゅ う広場)	143名	企業/コン サルタント /金融機 関/研究 者/NGO

※ 各セミナーの録画および報告は、ソリダリダード・ジャパン公式 YouTube チャンネルおよびウェブサイトにてご覧いただけます。

2024-2025 年は、皮革分野からネイチャーポジティブ、リジェネラティブ農業へとテーマを展開するとともに、企業・研究者・NGO・認証機関およびソリダリダード・ネットワーク(アジア、EU、ラテンアメリカ)からの登壇や海外参加者も交え、国際的知見を共有する対話の場を形成しました。

## 2026年に向けて

### — 2026-2030 戦略「Farmers First」に基づく展開 —

ソリダリダード・ネットワークの2026-2030戦略「Farmers First」は、小規模農家が力を発揮できる持続可能なサプライチェーンへの転換を目指しています。

2026年は、この戦略に基づき日本法人として以下の4領域に沿った取り組みを進めます。

#### ① 生産

小規模農家によるリジェネラティブな生産への移行を支えるため、これまでの視察や対話で得た知見を踏まえ、日本企業との連携の具体的方法を検討し、段階的な取り組みにつなげます。

#### ② サービス

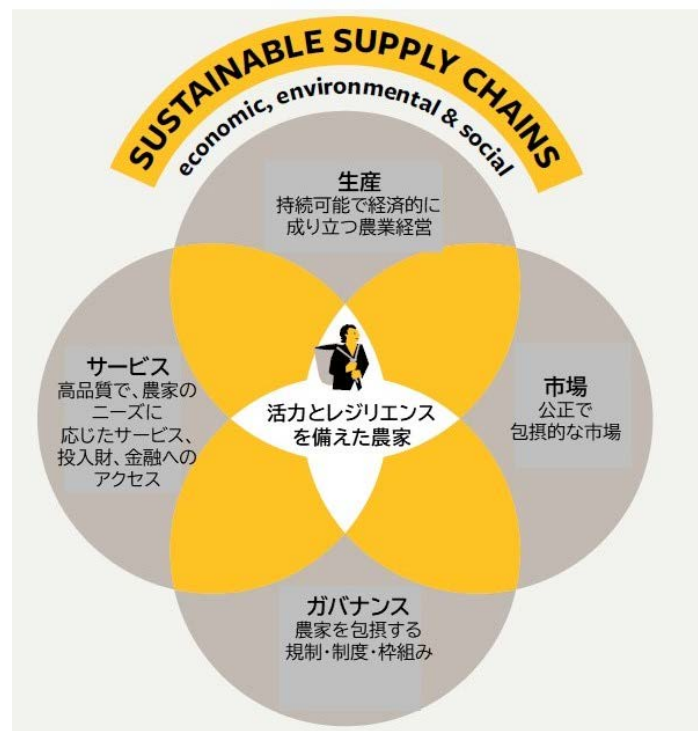
金融や技術等の条件整備に関する国際的な取り組みを踏まえ、小規模農家の移行を支える枠組みについて日本のステークホルダーとの意見交換を進めます。

#### ③ 市場

ネイチャーポジティブやPES等の議論を踏まえ、消費者や企業の理解促進に向けた情報発信を行います。

#### ④ ガバナンス

皮革分野の取り組みを進めるとともに、パーム油をはじめとする各分野で各国の政策立案者と日本企業の意見交換の場を設けます。

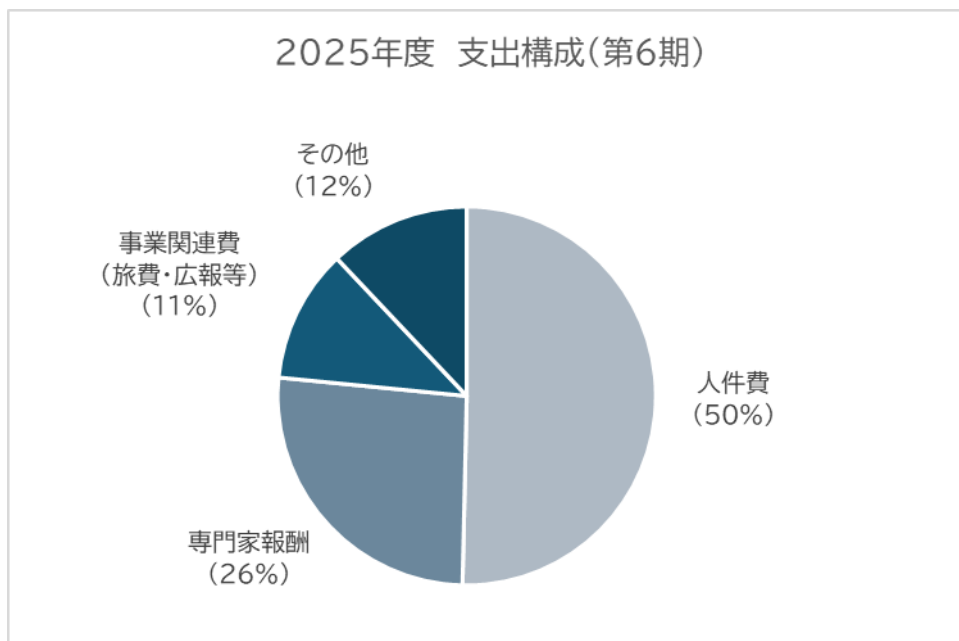


## 団体情報

団体名	一般社団法人 Solidaridad Japan
設立	2020年8月13日
所在地	東京都練馬区関町南4丁目23番地14号
URL	<a href="https://www.solidaridadnetwork.or.jp/">https://www.solidaridadnetwork.or.jp/</a>
役員	代表理事： 佐藤 寛、シャタドル・チャットパダヤイ
スタッフ	カンントリーマネージャー：吉田 秀美
事務局連絡先	japan-info@solidaridadnetwork.org

## 財務概要(第6期/2025年1月~12月)

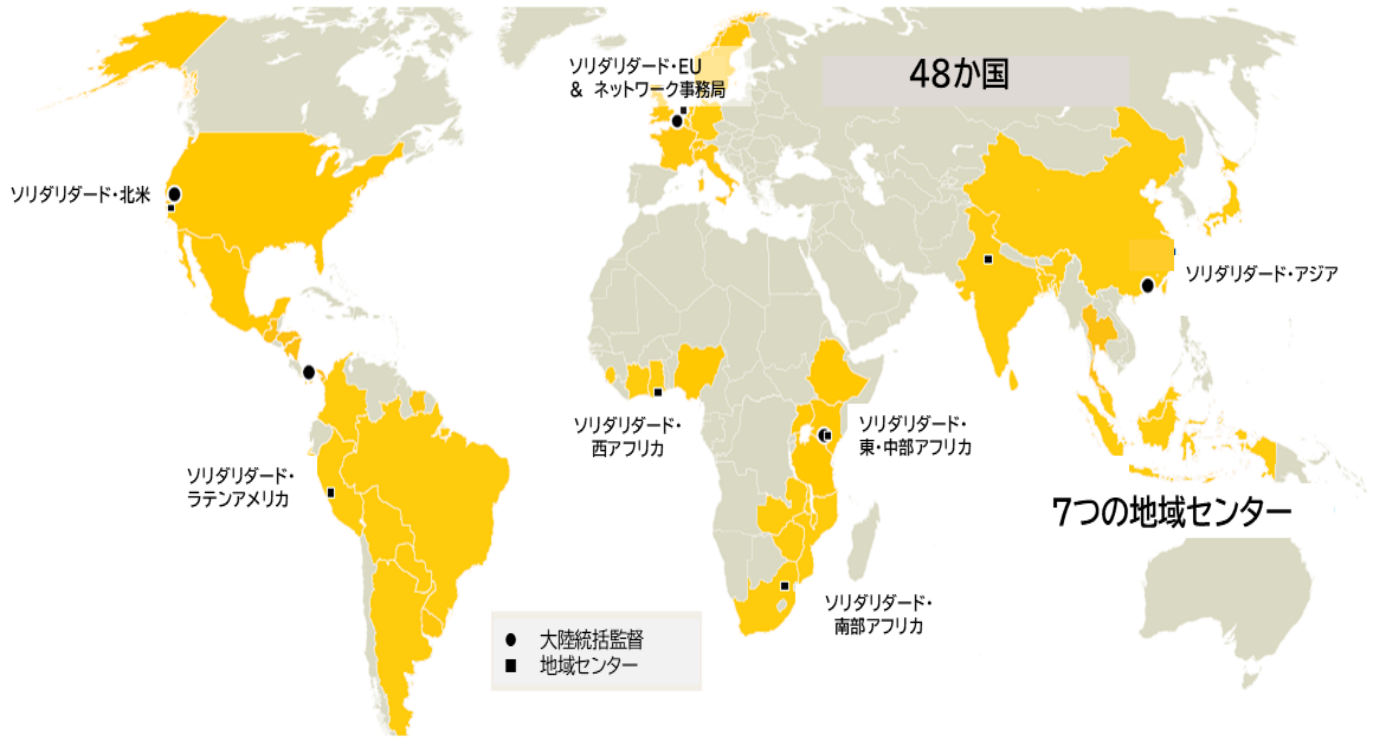
- 収入総額:15,389,623円
- 支出総額:15,020,416円
- 当期純利益: 369,207円



2025年度は、専門体制の強化を進めながら、収支の均衡を維持しました。

※詳細な各年度の財務諸表は当法人ウェブサイトに掲載しています。

## グローバル・ネットワーク



CHANGE  
THAT MATTERS